学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報
今月のトピック紹介版

5月号

全国的な学力調査実施の目的と今後の対応について

全国学力・学習状況調査では、義務教育水準の維持向上と日常の教育活動のたゆみない改善が大きなテーマとなっています。本号では、各校に蓄積された子どもの学力データや抽出調査の結果を踏まえた校内授業研究の在り方について紹介していますので、自校の課題解決の取組にお役立てください。

確かな学力を育てる授業づくりへのアプローチ

あわただしい４月が終わり、いよいよ授業づくりを軌道にのせ、子どもたちの更なるやる気を引き出したい５月となりました。本号では、この時期に取り組みたい授業づくりのポイントについてまとめています。自校の授業づくりについて、研究職員会等で協議や共通理解をする際の話題提供等にご活用ください。

子どもの安心感や教職員の対応能力を高めるチーム学校

４月１４日（木）スクールカウンセラー連絡協議会を開催しました。子ども個々の困り感や課題の改善には、子どもにかかわる教員やカウンセラーが、それぞれの専門性を発揮することに重ね、連携してアプローチを工夫していくことが重要です。そして、子どもを多面的にとらえ、その変容をも多面的にとらえることで検証は一層充実します。チームで仕事をすることの再確認資料としてご活用ください。

全国的な学力調査実施の目的と今後の対応について

全国学力・学習状況調査抽出調査については、データの提供ありがとうございました。今後データの分析を行い、各学校の授業づくりに資する情報提供を行いますので、日常の授業づくりにお役立てください。本号では、調査のねらいを再度確認するとともに、今後の校内授業研究づくりにつながる情報を提供させていただきます。

全国的な学力調査実施の目的

○義務教育の機会均等と水準維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その**改善**を図る
○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の**改善**等に役立てる
○教育に関する**継続的な検証改善サイクル**を確立する

「できた」「できなかった」に一喜一憂するものではなく、各学校が自校の課題をデータを基に明確化し、**日常の教育活動の「改善」を図ること**が、目的になっています。

５月から８月の校内授業研究に生かす！

STEP１　全職員で調査問題を解くことで、校内授業研究や日頃の授業で取り組むべき方向性が見えてきます！

平成27年度　小学校　国語科B問題の例
（目的や意図に応じて、整理して書く）

（解答例）
「一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれた」と、明るい声で話してくださいました。

理由を検索

関連付けて

40字～70字以内で書く

【話した内容】
このコーナーに参加してよかったわ。
それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。
みなさんも準備が大変だったことでしょうね。

【表情や声の調子】
・目を細めている　・明るい声

参加して良かった理由と登場人物の様子を関連付けて、語数指定で書く。

全国学力・学習状況調査の問題を実際に解いてみると、「今、子どもたちに求められる力」を確認することができます。

国語科の「理由や根拠を明確にして書く」等の内容や自然科学等の幅広いジャンルの文章は、他教科の内容にもつながっています。

<u>国語科・算数（数学）科担当の先生のみならず、すべての先生が問題を解くことで、今求められる力を全職員で理解することができます。</u>

STEP２　ポートフォリオされた学力データや抽出調査結果を参考に、自校の課題を全職員で共有し、指導や単元の重点を明確化し、課題の克服を図る。

自校の課題明確化

どの内容の理解につまずきがあるのか？
・データ分析
・子どものつまずきの傾向を把握

実態に応じた指導の工夫

どの内容の指導を重点化するのか？
・繰り返し取り上げ、習熟を図る内容
・単元の枠組みを超えて、積み上げる内容
・学年を超えて、一貫して指導する内容

取組例）
「割合」の問題に課題があることから、系統性を確認するとともに、全学年で課題克服に努める。

確かな学力を育てる授業づくりへのアプローチ

５月は、確かな授業づくりを軌道にのせ、子どもたちの更なるやる気を引き出したい時期です。本号では、この時期に確認したい授業づくりのポイントをまとめていますので、自校の取組の参考にしてください。

５月の授業づくりのチェックポイント

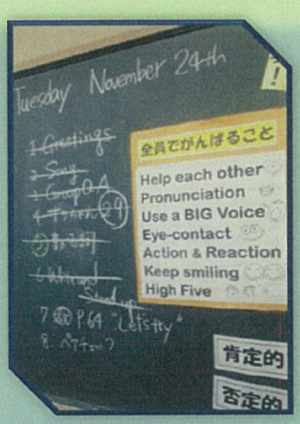
楽しい学びと学習規律の共存を子どもたちが理解している

例）相手の意見を理解しようと意識して聞き、分からない時は質問して聞く。

◆子どもが共に学び合う学習活動を促す「学習規律」の定着

・学習規律は、「静かに話を聞く」など、「基本的なルール」ととらえがちです。しかし、守るべき事項を教師が示すだけでは子どもの中に学習に取り組もうとする気持ちは育ちません。「意見の言い方や聞き方」など、子どもが共に学び合う学習活動を促す「学習規律」を身に付けていくことが大切です。

教室の風景から（伯耆町立溝口中学校の取組）



溝口中の外国語科では、「全員で頑張ること」を掲示し、年間を通して先生方による一貫した指導が展開されています。
Help each other　「助け合う」
Pronunciation　「発音を正確に」
Action and Reaction
「アクション＆リアクション」には、「友だちの発言には、必ず返す」といった意味があり、ペア学習などの言語活動の定着、充実を図る言葉がけになっています。

子どもたちが、学ぶ意欲をもち、力がつくと実感している

◆付けたい力を明確にした授業づくり

公教育の観点から適切なねらいを設定し、すべての子どもを本時のねらい到達へと導くことが大切です。「できる」「わかる」が子どものやる気を育てます。

◆めあての設定→学び合い→振り返りのプロセスの確立

・めあてや課題の設定では、「何を学ぶのか」を明確にします。

めあては、１時間で何ができるようになれば、よいのか、何がわかればよいのか、はっきりわかる表現にします。
例）どこから引くかを考えて、１２－９の計算ができるようになろう！

・全ての子どもが間違いを恐れず発言できるように配慮します。
・班やグループでの話し合いの目的を明確にします。

話合い活動の前に、何のための話合いか確認します。例えば、意見をできるだけ多く出すためなのか、意見を一つに絞るためなのか事前に明確にします。

・実際にできるようになったことを振り返ることが大切です。

国語科の振り返りでは、　友達の考えに触発されて、自分の考えが変容したことを言葉でまとめるようにします。授業の感想を書いて終わりになっていませんか？

子どもの安心感や教職員の対応能力を高めるチーム学校

お役立ち情報H28.５月号
西部教育局

すべての教職員がみんな同じ方向性を持って児童生徒に接すること、「チーム学校」としての視点を持ち、学校・関係機関等、それぞれの専門性を生かして学校づくり・学級づくりを進めていくことが大切です。

◇急速に変化する社会
◇児童生徒の困り感・問題の多様化・深刻化
◇教職員の困り感・対応の困難さ

→ 様々な側面から子どもを理解する

→ チームで対応
・教職員
・スクールカウンセラー(SC)
・スクールソーシャルワーカー(SSW)　等

→ 子どもの安心感
教職員の対応能力の向上

第1回SC連絡協議会

４月１４日（木）、第１回ＳＣ連絡協議会を行いました。子ども個々の困り感や課題が多様化・深刻化する中で、チームでの対応が不可欠であること、学校と関係機関の連携をより密にしていく必要があることを再確認しました。

複数の目で・多面的に・専門的に

問題行動を起こした子どもの事例をもとに、チーム学校の一員として、SC、教育相談担当それぞれの立場で、どんな事後対応や連携が考えられるか協議しました。

事後の対応は？学校としてできることは？

＜対応例＞
・生徒指導担当と連携して、子どもが問題を起こした背景を探る。
・SC、SSW、外部機関、学校などそれぞれが専門性を生かし、様々な角度から子どもを見る。
・SCと学校の間に信頼関係を築き、守秘義務を徹底した上で情報を共有し、子どもにとってより良い支援をチームで考え対応する。

チーム学校として

◆管理職
◆生徒指導主事・担当
◆担任
◆学年団

◆教育相談担当として
・子どもをどうしたいのか
→めざす子どもの姿を設定
・自分が何をするか
→今後の方針を立てる

◆SCとして
・ＳＣの専門性を発揮する
・所属校がめざしているもの
→未然防止案等の方針を把握

◆その他の外部機関

・どの分掌が何をするか
（校内連携）
・どう連携するか
（校外連携の再確認）
・それは効果的か
（チーム対応の仕組みづくり）

連携

担任だから見えること
担任外の職員だから見えること
SCだから見えること

情報の共有
対応の共通理解

☆未来を幸せに生きることができる子どもを育てるために

チームで子どもを多面的にとらえて対応 → 子どもの姿で成果を検証する